刀の魅力存分に
びぜんおさふね名刀まつり

鎌倉時代から刀鍛冶の名工を次々と生み、「備前長船」の名を広めた長船は、伝統文化や歴史に富んだところです。

「びぜんおさふね名刀まつり」は、中世福岡の市として栄え、文化と伝統に彩られた刀剣のふるさと長船のPRと町おこしを目的としたイベントです。

11月23日、装いも新たになった備前おさふね刀剣の里と慈眼院（刀匠菩提寺）で開催されました。

舞台上での迫力ある居合い斬り

「名刀太鼓」の勇壮な音でステージがスタート。楽しみながら演奏する打ち手の皆さんの姿に、会場の皆さんから惜しみない拍手が送られました。

ステージでは、「がまの油売りショー」、「真剣居合い斬り」、「忍者名刀物語」、と刀にちなんだショーが披露されました。観客の皆さんは、がまの油売りの掛け合いにほおをゆるめ、真剣居合い斬りに息をのみ、色鮮やかな衣装をまとった忍者のショーに見入っていました。

博物館では、企画展「赤羽刀と館蔵品展」が開かれ、普段目にするのが難しい刀を見ることができるとあって、刀ファンや家族連れらが次々に訪れ、赤羽刀の魅力を堪能。

鍛刀場では、1,300度の高熱で打ち伸ばし、玉鋼から不純物を取り除く鍛錬作業を公開。大勢の皆さんが身を乗り出して作業を見つめました。

工房では、刀身研ぎから刀身彫り、鞘や柄、鍔の制作風景まで、刀剣づくりにかかわるすべての作業を公開。匠の技の数々を傍らで見守る刀ファン。

約6千人が訪れ、刀の魅力を味わった1日でした。

名刀太鼓の勇壮な演奏

公開された刀剣づくり作業。真剣な表情で柄を巻く、柄巻師さん

声

この日、ここを訪れた皆さんに名刀まつりの感想を直撃インタビューしました。一部を紹介します。

柄巻師
三谷修史さん（63歳・高松市）

柄をうまく巻く方法を質問されますが、柄を巻く仕事は長年の経験で練習しかありません。職人は、いつも静かな所で仕事をしています。お客さんとふれあえるのも良いと思います。

木村二郎さん・**育子**さん夫妻
（55歳・瀬戸町）　（53歳）

刀に興味があり、祭りもあるので良い機会だと思って来ました。名太鼓の演奏は気持ち良く、元気をもらいました。大道芸も楽しいし、長船の人がボランティア参加していて良い祭りだと思いますよ。

東原正明さん・立季ちゃん親子
（30歳・長船町福岡）（4歳）

名刀まつりは、長船町をPRできるし、良いと思います。住民としても祭りの開催はうれしいし、毎年楽しみにしています。

山本久栄さん（61歳・長船町福岡）＝写真右＝・**近藤則子**さん（54歳・長船町福岡）

刀剣博物館に来たことがありませんでしたが、会場が備前おさふね刀剣の里になり、鍛錬場も見ることができました。誇れる祭りなので、ずっと続けてほしいです。

小山典子さん・**宗一郎**君（39歳・長船町福岡）（6歳）＝写真前列＝

会場が刀剣の里になり、一体感が出て良かったと思います。以前は出店もしていました。今回は、子どもと楽しむことができてうれしいです。

まちの良さを知り好きになろう

これらのイベントを通して、何が見えてきたでしょうか？

地域の皆さんが積極的にかかわり、それぞれの地域の特色を生かした取り組みに、参加した皆さんは、地域の良さを再認識したのではないでしょうか。

伝統文化や歴史に富み、自然豊かな瀬戸内市。わたしたちのまちには、まだまだ多くの魅力が隠れているような気がします。

大きなイベントだけでなく、あちらこちらで、いろいろな催しが企画されています。皆さんも積極的に参加し、まずは知ることから始めてみませんか。

自分の住むまちの良さを知れば、自分のまちが好きになるはずです。